

事務局だより

●滄水会総会

滄水会総会及び記念講演会が次のとおり行われる予定です。ご多忙とは存じますが、お誘い合わせの上で出席のほどお願い申し上げます。会員の皆様には別途ご案内させていただきます。

- 日時：11月22日(土) 13:00～
- 場所：東海大学校友会館 (<http://www.tokai33.co.jp/>)
- 記念講演会
講師/高妻容一(こうつまよういち)氏
(東海大学専任教授 体育学部競技スポーツ学科)

●住所変更等のお願い

会員の皆様の住所変更等がございましたら滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

なお、皆様よりお知らせいただいた住所、氏名、勤務先、その他の個人情報、同窓会及び大学が主催する行事、個人を特定しない統計的集計を目的とした利用以外には一切使いたしません。また、住所に関する個人情報は厳密に管理され、調査表は破棄されます。その際は個人情報適正に取り扱い、秘密保持のため個人情報業務委託契約等を取り交わすとともに、適切な管理を実施いたします。

●終身会費納入のお願い

滄水会の活動は、卒業時に徴収される終身会費と次項で述べる維持寄付で運営されています。事務局では経費削減に努めておりますが、会員数の増加に伴い、通信連絡費・印刷費などが増加しており、会をスムーズに維持していくことが困難な状況となっております。

卒業生の皆さまは、同窓会会則により「終身会費10,000円」

●維持寄付のお願い

滄水会では、会員資格20年ごとに滄水会維持発展のために維持寄付をお願いしております。20年目の節目に、是非、滄水会を盛り上げていただきたく、ご寄付をお願い申し上げます。

勝手ながら、維持寄付依頼対象者は「85年(21回卒業)の会員までの方」となっております。該当の会員には払込取扱用紙を同封いたしましたので、次の要領で払い込みくださいますようお願いいたします。

＜専門分野＞ スポーツ心理学

＜研究内容＞ サッカーの鈴木啓太選手、柔道の鈴木桂治選手などのスポーツ選手やコーチにスポーツ心理学のメンタルトレーニングを指導し、メンタル面の強化を実践させ、そのトレーニング効果を分析・検討。

＜主な著書＞ 明日から使えるメンタルトレーニング(ベースボールマガジン社) 他
＜出演番組＞ 爆笑問題のニッポンの教養「スボ根はいらない!～スポーツ心理学 高妻容一～」

用いたしません。また、住所に関する個人情報は厳密に管理され、調査表は破棄されます。その際は個人情報適正に取り扱い、秘密保持のため個人情報業務委託契約等を取り交わすとともに、適切な管理を実施いたします。

を納入していただく規定になっており、ご協力をいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただいております。

維持寄付金：一口 5,000円

(できるだけ2口以上でお願い申し上げます)

払込み方法：同封の払込取扱用紙をご利用の上、最寄りの郵便局から払い込みください。

【注意：「会費未納の方」で、かつ「維持寄付依頼対象者」には、2通の払込取扱用紙が同封されております。何卒、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

発行日：2008年8月 発行者：滄水会会長 小部博志

編集委員：池田知純、山下陽一郎、磯野宏秋、川上善嗣、福岡亮弘、菊池 真、澤 武一

滄水会ニュース 第20号

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1
職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局
FAX 042-763-9267
E-mail sousuikai@uitec.ac.jp

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌
〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1
職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局
Fax: 042-763-9267
E-mail: sousuikai@uitec.ac.jp
URL: <http://www.uitec.ehdo.go.jp/>



AUGUST, 2008, Volume XX

同窓会、母校への思い

職業能力開発総合大学校は、昭和36年 東京都小平市に中央職業訓練所として設立し、平成23年には50年を迎えます。現在、卒業生は、昭和36年の開校以来約7,000名を数え、主には職業能力開発施設や企業の中核で活躍しています。

これまで滄水会では、同窓生に対しての職業大の情報発信拠点としての役割を担い、学生に対しては学祭などの課外活動の支援を積極的に行ってきました。一方で、度重なる学科編成や定員削減により、同窓生および在校生の職業大に対する母校愛が失われてきており、同じ場に学んだ縁のみの同窓会の存在意義を見出せない人も増えてきているように感じました。また、職業大と同窓生との関係は希薄になりつつあり、最大の応援団であり、支援者でもあるはずの同窓生が職業大の支援に力を発揮する場面があまりありませんでした。

法人化や少子化で大学間競争が激化する中、他大学では同窓会が大学の発展に欠かすことができないものとして捉え、同窓生も大学を構成する一員と位置付け、同窓生との関係づくりを力を入れています。滄水会においても、行政改革の荒波の中、奮闘している母校の姿、同窓生の活躍の様子や大学校の活発的な教育研究活動の様子を同窓生に知ってもらうことで、大学校に対して物心両面での支援を行い、社会・母校・学生との架け橋になりたいと考えています。

今後、同窓生、在学生、職業大から「同窓会があってよ



滄水会会長
小部 博志
(7期生 第一電気科)
日本電産株式会社代表取締役副社長

かった」といわれる存在であるためには、従来の活動に加えて、同窓生とのつながりを構築するための同期会への支援、在校生が同窓会に関心をもてるようなイベントの開催、同窓会のあり方や今後の進め方など意見交換の場の設立など、より魅力ある会に改革していく必要があると思います。

今後は、財政的にもランパワ一的にも厳しくなる中、如何に必要な活動を効率的に展開していくのか、再考していく事が必要であると考えます。

本年、滄水会総会(講演会・パーティー)を11月22日(土)東海大学校友会館で開催します。皆様お誘いあわせの上、是非ともご出席ください。同窓の皆様からのご意見・ご提案などを伺いながら、進んでいきたいと思っております。今後とも、ご支援ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会の報告

2007年11月、静岡県において、「第39回技能五輪国際大会 (WSC)」と「第7回国際アビソンピック (IA)」という2つの国際技能競技大会が、「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」の名のもとに、史上初めて同時開催され、大会期間中の来場者も29万人を上回るなど、大成功のうちに幕を閉じました。

本大会には、60を超える国・地域から、約3,800名近くの選手とその関係者が我が国に集い、うち、技能五輪国際大会には47カ国・地域が、国際アビソンピックには34カ国・地域が参加し、18の国・地域が両大会に参加しました。選手等は、11月14日に開会式を合同で開催し、翌日から、沼津市では「第39回技能五輪国際大会」の競技が4日間行われ、また、静岡市では「第7回国際アビソンピック」の競技や「IA2007 ワークフェア」等が3日間行われました。来場者数は、目標 (20万人) 大きく上回り約29万3,000人でした。

本大会の大きな成功は、大会参加国・地域の関係者の方々や、本大会の趣旨に賛同され、様々なご支援・ご協力をされて企業、団体及び個人、更には地元関係者の方々など、実に多くの方々の大会運営への多大な支えがあったことによるものであります。

本大会に出場された選手の皆さん、優れたものづくり技能を継承するために一途に技能を研鑽し、最高の作品をつくらうと競技に打ち込みひたむきな姿が、声援された多くの方々に共感と大きな感動を与えてくれたものと確信しています。本大会は、技能が個人人を輝かせること、また、優れた技能が社会の発展を支えていることを、私たちに強く認識させる機会でもあり、今後、本大会の開催を契機とし

て、ものづくり出す人と技の価値がますます高まることを熱望しています。選手やその指導に当たられた方々が、本大会を通じて得られた成果を技能の一層の向上に活かし、各国・地域の社会発展に寄与されることを心から願っています。

本大会では、各競技を運営するに当たり、エキスパート、スーパーバイザー等をはじめ、技術的な面で競技を支える役割を担った多くの競技関係者がいます。この競技関係者の中には、職業能力開発総合大学校をはじめとする関係機関の方々も多くおられ、大会期間中は無断のこと、大会開催に向け、数年前からの準備段階から参画いただいています。本大会の大きな成功はこの競技関係者の方々の力強いご協力なくしてはあり得なかったことをご紹介しておきます。

次回は、2009年に第40回技能五輪国際大会がカナダ・カルガリーで、2011年に第8回国際アビソンピックが韓国 (場所未定) で開催される予定です。



●参加国・地域、参加者数
大会史上初の2大会同時開催。技能五輪国際大会は史上最大規模の参加

	総 計	第39回技能五輪国際大会	第7回国際アビソンピック
参加国・地域	63カ国・地域	47カ国・地域	34カ国・地域
選手参加国・地域	55カ国・地域	46カ国・地域	23カ国・地域
参加者数計 (選手数)	3,771人 (1,172)	2,861人 (812)	910人 (360)

●来場者数
目標 (20万人) の1.5倍近い約29万3千人に上る来場者数。

	計	第39回技能五輪国際大会	第7回国際アビソンピック
総 計	293,300人		
開 会 式 (11/14 (水))	6,700人		6,700人
競 技 日	275,600人	218,600人 (11/15 (木) ~ 18 (日))	57,000人 (11/15 (木) ~ 17 (土))
ウェルカム・フェスティバル選手村	4,000人	4,000人 (11/20 (火))	—
閉 会 式	7,000人	4,800人 (11/21 (水))	2,200人 (11/18 (日))

●競技結果

	第39回技能五輪国際大会	第7回国際アビソンピック	
金メダル獲得数	1位	日本 (16) <銀5、銅3、計24>	日本 (12) <銀17、銅15、計44>
	2位	韓 国 (11) <銀10、銅6、計27>	韓 国 (8) <銀3、銅2、計13>
	3位	フランス (5) <銀4、銅3、計12>	中 国 (4) <銀6、銅7、計17>
	4位	スイス (4) <銀7、銅5、計16>	チャイニーズ・タイペイ (4) <銀4、銅1、計9>
日本が金メダルを獲得した 競技職種・種目	ホリメカニクス (8連覇) 情報ネットワーク施工 CNC旋盤 CNCフライス盤 溶接 自動車板金 電子機器組立て 電気 洋菓子製造 造園 移動式ロボット 抜き型 機械組立て 構造物鉄工 木型 曲げ板金	コンピュータプログラミング データベース作成 (応用・基礎) 歯科技工 洋裁—婦人服 (応用) 洋裁—婦人服 (基礎) 電子機器組立及びビュースト 電子回路接続 フラワーアレンジメント 家具製作 (基礎) 精密板金 編物	

2008年 第3回若年者ものづくり競技大会

平成20年8月6日 (水) から8日 (金) に、職業大および東京校にて、第3回若年者ものづくり競技大会が開催されました。職業大では、メカトロニクス、機械製図 (CAD)、旋盤、フライス盤、電子回路組立て、電気工事、自動車整備、ITPCネットワークサポート、ロボットソフト組み込みの計9職種、東京校では、木材加工、建築大工、ウェアデザイン、情報技術、グラフィックデザインの計5種類の競技が実施されました。



競技の様子 (左：メカトロニクス 右：ロボットソフト組み込み)

総合大の変遷

～母校の学科変遷と今、そして、これから～

学生と教職員のコミュニケーションが一番近くとれている大学、それがわれわれの職業大ではないでしょうか。指導員養成という目標の下で、連日実習に明け暮れて青春を過ごせる時間帯は今なお他大学では得られません。

最近の職業大の状況をいくつか同窓生の皆さんにご紹介いたします。



職業能力開発総合大学校
長期課程部長
塩田 泰仁

1. 職業大の略称

2008年4月から、新しく生まれ変わる大学校のイメージアップと、各地の能開大とはっきり区別できるようにとのねらいから、「職業大」という略称を使うことになりました。相模原のキャンパスを訪れる方は、バス停の呼び方がこれまでの「総合大」から「職業大」に変わって驚かれるかもしれません。どうぞよろしくお願いします。

2. 卒業生の評価

長期課程では、これまでの43年間（1964～2007年度）で6978名（留学生を除く）の卒業生を世に送り出し、うち2394人（34%）が指導員として就職しています。また、企業内技術者や公務員としても多くの卒業生が活躍しています。

2008年3月に行った能力開発施設でのヒアリング調査でも、卒業生の訓練指導力が大きく評価され、技能検定・技能五輪での協力も高く認められています。2007年7月の民間会社でのヒアリング調査でも、技術・技能の継承力や現場のリーダーシップ能力がたいへん優れていることがはっきりとわかりました。

3. 新しい取組み

職業大の母体である雇用・能力開発機構の見直しとともに、2009年から長期課程の入学定員はこれまでの200名から120名にと少なくなりま。指導員養成という基本目的に沿って、学科も機械システム、電気システム、電子情報

システム、建築システムの4工学科に絞り込みます。1970年代に戻り、職業大が手厚く学生を教育する方向性をたどり

ます。教授会で台意された「職業大アクションプラン」にしたがって、職業大は次のような新しい取組みを全学的に行います。

- 4年次の実務実習を3年次に移行して、就職活動前に訓練施設の指導員体験をします。
- 3年次の工場実習を4年次に移行して、指導員内定者は再度訓練施設へ、民間内定者は民間へ、というインターンシップ実習に変更します。
- 就職活動支援コーナーを生協隣に毎日開いて、情報提供や学生の相談に乗りま。
- 全都道府県に地域担当教員を配置して、情報収集・高校訪問など機動的に動きます。
- 専門課程を再開して、都道府県、法務省、機構の期待に応えます。
- パンフレットやホームページを改編します。

4. 今後の期待

このところ学内の雰囲気はたいへん明るいものになってきています。その原因の一つは、学生が行き違う教職員や来校者に挨拶をしてくれるからです。それから、見学者・視察者の増加によって、学内の整理・整頓が進んだこともあって

よう。学生の意識変化や教職員の取り組みによって、職業大は着実に地歩を固めつつあります。どうぞ卒業生の方々も機会を見つけて、母校を訪れてください。心から歓迎いたします。

平成21年度長期課程学生募集の案内

職業能力開発総合大学校では、長期課程学生募集を実施しております。少子化による大学全入で各大学苦戦の報道の中、本校も年々受験者数が減っています。一昨年度より、入学生の質を上げるべく受験者数を増やすために、推薦入学試験の出願資格の緩和、学科試験から小論文への変更など受験しや

すい入試を実施しております。また、教職員による高校訪問、広告の強化などに努めております。現在の本校の入試について滄水会会員の皆様に知っていただき、さらなる宣伝をお願いしたいと思います。

系・学科名	募集人員
機械系	40名
電気・通信系	30名
電子・情報系	20名
建築系	30名
合 計	120名

<新学科紹介>

● **機械システム工学科**
機械システム工学科では、汎用工作機械およびCNC工作機械による加工技術、ロボットを用いた制御技術、CAD/CAM/CAEによる設計技術など機械工学全般について学びます。設計から、生産、制御、評価までのものづくりに関する基礎技術を理論・実技の両面から学びます。

● **電子情報システム工学科**
電子情報システム工学科では、はじめに組み込みシステムの設計・開発・製作を可能とする要素であるハードウェア、ソフトウェア、ネットワークを学び、小規模な組み込みシステムに関する実習を行い、基礎を身につけます。次に、身につけた技術・技能・知識を基に、大規模な組み込みシステムが構築できるよう専門性の高い教育訓練を行います。

● **電気システム工学科**
電気システム工学科では、コアとなる電気理論、電力・電気機器、計測、制御などの講義と実験・実習を通して、電気工学の知識と関連するものづくりの基本的技術・技能を身につけます。次に、発電および省エネルギー化の各種システム、コンピュータ制御による知能ロボットなどの先端技術を実学一体で学びます。

● **建築システム工学科**
建築システム工学科では、まず、計画・設計技術、材料・構造技術、環境・設備技術、構法・施工・生産技術など建築の基礎技術について学びます。次に、木造や鉄筋コンクリート造など建築物の全体または一部を実際につくることで、構造体、仕上げおよび設備にいたるまで有機的に学びます。

<入試日程>

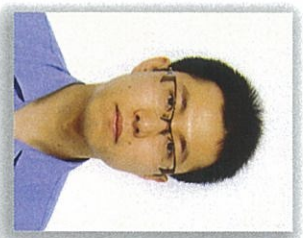
1) 推薦入試

出願期間／平成20年10月1日(水)～10月10日(金)
試験期日／平成20年10月25日(土)
合格発表／平成20年11月14日(金)

2) 一般入学試験

出願期間／平成21年11月13日(火)～1月23日(金)
試験期日／平成21年2月17日(火)
合格発表／平成21年2月27日(金)

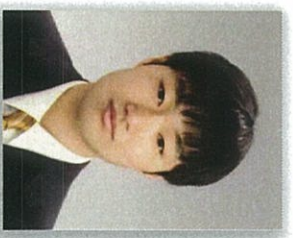
滄水会賞受賞者のその後



柳原 充
平成10年度受賞
生産機械工学科卒業
独立行政法人雇用・能力開発機構
職業能力開発総合大学校

職業大では、恩師である先生方をはじめ同窓生や先輩方、後輩に恵まれても有意義な学生生活を送ることが出来ました。ただ今、正直に申し上げますと、先生方から見てあまり良い学生ではなかったのではないかと思うことかたくなにあります。そのような私でしたが、思いがけず賞をいただくことになりとても嬉しかったことを覚えています。この出来事は、職業訓練指導員として私の気持ちを奮い立たせる大きな支えになっております。

現在、私は母校である職業能力開発総合大学校にて諸先生方の胸を借りて、微力ではありますが職業訓練指導員の養成に携わっております。職業能力開発事業を取り巻く現在の状況は大変厳しいものがありますが、「モノづくり」及びその「技能継承」についてはとても注目されているということは私も強く感じているところです。そのような中で、何とか職業訓練指導員としてふさわしい実力を身につけるよう常に挑戦しながら、時には学生にそのような姿を見せつつ、日々様々な業務に取り組んでいる最中です。



青地 学
平成14年度受賞
産業機械工学科卒業
独立行政法人雇用・能力開発機構
八幡職業能力開発促進センター

本業の大切さ 「山と溶接どっちが大切やねん!?!」4年生の正月休み終盤に恩師からどなられた。正月休みを利用した冬山登山を終えて研究室に出た日の出来事だった。研究室の同期は冬休みも卒業研究に励んでいたのである。内心、「そりゃ、どっちも大切や!?!」と思うのであるが言い出せるわけもなく、「溶接が大切です。」と答えた。それ以前にも

「溶接の奴隷になれ!?!」と説かれたこともあったが、山の魅力には勝てなかったのである。また、「おまえが山に行くのは現実逃避や!?!」と趣味を一蹴されるわけである。恩師の話では、厳しい不況と競争の中で生活の糧を得るのは難しく、趣味に時間を割く余裕などなくて、必死に仕事に取組んでようやく売りにできる何かを得られるとのこと。未だ、「溶接の奴隷」にはなりきれないが、恩師から授けられた溶接の技能と技術は生活の糧を得る基となっている。また、本業を大切にすることを教える、今も心に響き続けているのである。



作山 昌史
平成12年度受賞
電気工学科卒業
京都府民労働部
京都府立京都高等技術専門校

総合大在学の4年間は、職業訓練指導員となるべく訓練は勿論のこと、人生の目標となる恩師、苦楽を共にした掛替えのない仲間、今の私の支えとなっている大切な“人”と巡り会った貴重な時間でした。

現在、私は京都府立京都高等技術専門校メカトロニクス科職業訓練指導員として職務しております。物作りを取り巻く問題は山積しておりますが、総合大出身の熱い思いのある先輩方と協力し、総合大で学んだ「物作りのための人づくり」を実践しております。日々訓練生を指導する中で、人づくりは人にしか出来ないことを痛感しております。

今後強い信念と初心を忘れることなく、職業訓練指導員として物作りのための人づくりを邁進してまいります。



森口 肇
平成7年度受賞
電子工学科卒業
独立行政法人雇用・能力開発機構
高度職業能力開発促進センター

早いもので滄水会賞をいただいてから12年、総合大を巣立って10年が経ちました。研究課程を含め6年間総合大

(副大、能開大) に在籍し、先生方をはじめ、先輩、同級生、後輩諸氏に恵まれ、今振り返ると幸せな学生生活が送ることができた改めて感じているところです。在籍した6年間で指導員としての基礎を勉強させていただいたことはもちろんですが、在籍期間を通して、人とのつながりの大切さ（一期一会）を実感し、研究課程在籍中は、恩師である鳥居先生より、物事を論理的思考で（ロジカルに）捉えることの重要性を学びました。学生時代に培った人脈や論理的思考が今の指導員生活に大いに活かされており、それらのおかげで窮地を何度も乗り越えることができました。

私も平成15年3月に職業能力開発総合大学校建築工学科を卒業後、構造設計事務所勤務し、建築物の構造設計業務に携わってまいりました。その後、現在の職に就き、私の業務は昭和56年以前の旧耐震基準に基づいて設計された賃貸住宅を中心に耐震診断、改修設計・改修工事を進めています。現職に就いたばかりの私にとっては、事業進行中の住宅はもちろんのこと、耐震診断や改修工事が完了している住宅についても可能なり現地へ赴き、周囲を歩くことによって、図面や写真だけではわからない様々な事柄を体感しようという心がけています。



上塚 雅代
平成14年度受賞
造形工学科
オーケイアイエックス株式会社
企画営業部勤務

私は職業能力開発総合大学校を卒業後、居住系の職業訓練指導員として能力開発施設に勤務しておりましたが、以前より興味があり造形工学科で学んでいた木材加工を中心とした技術・技能を活かしたいという想いから、現在の仕事に転職をしました。

弊社では、「100年かかって育った木は100年使えるモノに!」[「お椀から建物まで」]「子ども一人、ドンク一粒」という合言葉をもとのモノ造りをしており、その一方で広葉樹の森を育てる活動も行っています。木や木のものづくりが好きなので私は、森に囲まれた自然の中にあり、工房がすぐ隣にある高山ショールームの環境はとても魅力的です。都会では年々感じることでなくなってきた四季を肌で感じられ、昔から受け継がれてきた工法や技術を守りながら今のニーズにあわせたものづくりをする職人の技を自分の目で体感できるのです。この魅力をご来店下さる方々に少しでも多く感じていただき、そしてこの店に来てよかった、この店の物を買って・使ってよかったと思っていただけるよう心がけ日々接客をしています。

指導員からソーシャルメディアスタッフへと仕事は変わりましたが、学生時代に先生方から教えていただいた様々な知識や技能および能力開発施設で動きながら学んだことや多くの訓練生と接した経験は今の私の何よりも大切な力になっていると思います。

もし高山へこられる機会がありましたら、是非弊社へお越しください。心にやさしい家具とともにお待ちしております。
(URL: <http://oakv.co.jp/index.html>)



田中 郁恵
平成14年度受賞
建築工学科卒業
都市再生機構東日本支社
住まいサポート業務部

私は平成15年3月に職業能力開発総合大学校建築工学科を卒業後、構造設計事務所勤務し、建築物の構造設計業務に携わってまいりました。その後、現在の職に就き、私の業務は昭和56年以前の旧耐震基準に基づいて設計された賃貸住宅を中心に耐震診断、改修設計・改修工事を進めています。現職に就いたばかりの私にとっては、事業進行中の住宅はもちろんのこと、耐震診断や改修工事が完了している住宅についても可能なり現地へ赴き、周囲を歩くことによって、図面や写真だけではわからない様々な事柄を体感しようという心がけています。

今後の目標は多様なライフスタイルや価値観が存在する現在に求められる「安全・安心・快適」な住居環境をみなさまに提供できるように、できるだけ感覚を研ぎ澄ませ、多くのことを感じて、滄水会賞受賞者として恥ずかしくないよう、日々の業務に励みたいと思っています。

職業能力開発総合大学校および滄水会のみならず、ご発展と多くの卒業生の輝かしい活躍を期待しております。

新川 智之
平成9年度受賞者
福祉工学科卒業
神奈川県企業庁

大学の頃から今に至るまで、一番役に立っていることはメモを取ることです。メモ自体は言葉の羅列でも、読みにくくてもかまいません。配布物や本の隅にとるのもいいでしょう。メモは頭で覚え切れない内容を記録する、いわば外部記憶です。後で見返してなるほどといえればそれだけで価値があります。

さらに進んで、メモを整理して保存すれば、立派な資料になります。この整理過程ですでわかるわからないことは、調べたりして明確にすることが大切です。このメモを取るから資料までの流れは仕事と同じで、メモは現状把握、整理が実作業、わからないことを明確にするのが問題点の洗い出し、資料が成果となります。また整理を効率的に進めるための目標の設定、時間の配分が計画となり、過程を見直すのに使えます。物事は普遍的で見方を変えると単純化できる、自分が理解しやすいように見方を変えることも役立ちます。

歴代受賞者

学科名	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
産業機械工学科	指宿 宏文	CHADARAT NOPNB	内海 俊紀	高橋 毅
生産機械工学科	古賀 俊彦	江守 真	臼井 章	榊原 充
電気工学科	鈴木 康弘	吉田 和正	高田 伸一	藤野喜久子
電子工学科	森口 肇	西野 友義	高橋 誠	内野 伸一
情報工学科	平井 有希子	米田 光伸	井上 恒	堀田 小百合
建築工学科	岩田 聖司	黒木 宏之	杉浦 謙司	龍澤 絵里子
造形工学科	太田 雅裕	小出 美幸	大海 郁子	澤口 亮
福祉工学科	佐藤 一晃	金子 剛久	新川 智之	柴田英介

学科名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
産業機械工学科	熊谷 紀彦	青地 学	中澤 満	福原 圭吾
生産機械工学科	山田 知広	岩崎 弘美	木村 寛路	原 啓一郎
電気工学科	内迫 彰英	作山 昌史	石垣 真吾	芝野 祐介
電子工学科	中谷 努	大沢 朋芳	中山 伸一	岡田 秀一
情報工学科	川邊 ふく彙	堀内 美麿	加藤 淳	金子 裕美
建築工学科	金木 邦彦	中須 一夫	佐々木 禎枝	田中 郁恵
造形工学科	藤原 義康	影山 知美	武富 茂史	上塚 雅代
福祉工学科	二宮 敬一	島村 博	浅井 協子	菅原 基棋

学科名	平成15年度	平成16年度	平成17年度
産業機械工学科	リッキー・エルソン	那須 洋祐	大高 慎一
生産機械工学科	長谷 亜剛	渡部 賢太郎	山内 雄介
電気工学科	北本 和也	藤田 真宣	依田 安基
電子工学科	藤社 悦史	青木 達也	江連 雅晴
情報工学科	松崎 加奈子	川田 純也	リュウチャロリット・チャロトーン
建築工学科	林 美奈子	山上 宏明	栗林 宏至
造形工学科	カロリン・クリスヤンティカ	水迫 知久	桑原 清香
福祉工学科	青木隆雄	川合 恵子	高良 嘉明

平成18年度および平成19年度
卒業式・修了式・滄水会賞授与式

● 平成18年度および平成19年度滄水会賞授与式 ●

平成18年度卒業式（平成19年3月20日）、および平成19年度卒業式（平成20年3月17日）が「社のホールはしもと」にて挙行されました。小部会長の祝辞に引き続き、各受賞者に滄水会賞が授与されました。写真は記念メダルをはめ込んだ賞状を手にした受賞者の皆さんです。

平成18年度 滄水会賞受賞者・「卒業研究テーマ」

(敬称略)

平成19年度 滄水会賞受賞者・「卒業研究テーマ」

(敬称略)

- 産業機械工学科／木村允彦
「モータの半径方向力とトルクの磁界解析」
- 生産機械工学科／中島瑛利子
「定圧研削法によるフラインセラムミツクの被削性能の定式化」
- 電気工学科／後藤和幸
「受動的冗長自由度を持つシステムのビジュアルフレンドバック制御」
- 電子工学科／石丸将之
「RF-ID用受信アンテナの高性能化の研究」
- 情報工学科／アグス スシロ
「拡大体MPSCを用いた光CDMA通信システムの研究」
- 建築工学科／武井和香奈
「建築用フレカットシステムにおける加工騒音のモニタリングに関する研究」
- 造形工学科／ナクピビット ポンラウイー
「リベーターデザイン開発 スーツケースについて」
- 福祉工学科／角井裕弥
「サッカーにおける能力測定機器開発」
- 精密機械システム工学科／豊田幸洋
「マイクロステータス盤用主軸の設計と試作に関する研究」
- 機械制御システム工学科／赤田浩太郎
「自己復帰モジュールを応用した呼吸規則性指標に関する研究」
- 電気システム工学科／山内咲子
「電子機器製造工程における静電気対策に関する教材開発」
- 電子システム工学科／アクハバド イスナエニ
「CMOSを使用した多値論理回路とその応用に関する研究」
- 情報システム工学科／川島千種
「Real-Solomon符号を用いた秘密分散法に関する研究」
- 通信システム工学科／杉田大輔
「情報ネットワーク施工技能者の動作解析と作業の最適化に関する研究」
- 建築システム工学科／稲益早矢香
「卒業制作「やまなみ小一貫校」～藤野町における学校再配置プロジェクト～」



平成18年度 滄水会賞受賞者



平成19年度 滄水会賞受賞者

国際協力部からのインフォメーション

●世界各国で活躍する卒業留学生等を知っていますか？

タイ50名、インドネシア49名、マレーシア24名
 フリピン19名、ベトナム1名、スリランカ1名
 中国30名、シンガポール19名

長期課程における国費外国人留学生受入事業は平成4

(1992)年10月に開始され、開発途上国における質の高い職業訓練指導員及び職業能力開発に携わる者の養成・確保への協力を目的として、日本の国費により募集対象国(インドネシア、マレーシア、フリピン、タイ、スリランカ、ベトナム、カンボジア、ラオス、メキシコ)から毎年16名を受け入れています。平成20(2008)年4月4日現在、66名の留学生が在学し、144名の卒業生がそれぞれの出身国で、主に労働省等で活躍しています。これより先には中国(1980年～1992年)から30名、シンガポール(1981年～1989年)から19名の留学生を受け入れ、彼らは卒業後、世界各国で活躍しています。

研究課程は平成13(2001)年4月に開始され、募集対象国(インドネシア、マレーシア、フリピン、タイ)から留学生2名を毎年受け入れ、平成20(2008)年4月4日現在、4名の留学生が在学し、9名の卒業生がそれぞれの出身

国の労働省等で活躍しています。

一方、海外技術研修員の受入事業は開発途上国を対象に昭和38(1963)年から現在まで、職業訓練指導員や職業訓練業務に携わる中堅技術者を受け入れて研修(1年～6カ月)を行い、人材育成に貢献しています。これは、JICAとの協力事業として、我が国政府が行う国際技術協力の一環を担っており、現在まで44年間実施され、研修員受入数は、92カ国から1,627名となっています。

視察型研修の受入については、アジア・アフリカ地域を中心に多くの職業訓練指導員等の研修を実施していることから海外における当大学の知名度が高く、世界各国の職業訓練関係者が施設見学等に訪れ、昨年度は235名の受入実績があります。

本大学校を卒業し、母国で活躍している帰国留学生は大学の財産であり、海外との人的ネットワークです。

在校生の活動状況

平成19年度の在校生の活動状況を報告します。はじめに専門工学分野の論文等で受賞した長期課程及び研究課程の学生の紹介です。次に学生自治会関連で、各種大会に参加したサークル関係の大会名と結果です。

<学生の受賞>

- 長期課程
 - ・吉見康司 (電気システム工学科) 電気学会東京支部 電気学術奨励賞
 - ・丸山倫靖 (福祉工学科) 平成19年度ライフサポート学会奨励賞
「人体モデルを用いた短下装具の変形解析に関する研究」
- 研究課程
 - ・小矢畑 章 (機械専攻) 第58回塑性加工連合講演会優秀論文講演奨励賞 (日本塑性加工学会)
「バニシ仕上げされた射出成形金型の表面品質の検討—CAD/CAMを利用した金型の表面仕上げ 第6報—」
 - ・水上祥次 (電気・情報専攻) 日本非破壊検査協会 新進賞受賞
「回転渦電流プローブの設計とき裂検出特性」 (日本非破壊検査協会)
 - ・水上祥次 (電気・情報専攻) 日本保全学会 第1回産学協同セッション銀賞受賞
- ・前場浩太 (電気・情報専攻) 平成18年 電気学会YPC優秀発表賞受賞
「形状記憶合金を用いたロボットハンドの制御系設計」 (平成18年電気学会産業応用部門大会ヤングエンジニアポスター)
- ・由良裕美 (機械専攻) 平成19年度バリアフリーシステム開発財団奨励賞 (ライフサポート学会)
「下肢障害児を対象とした自立移動支援装置の開発」
- ・由良裕美 (機械専攻) 平成19年度ベストプレゼンテーション賞 (精密工学会)
「下肢障害児を対象とした自立移動支援装置の開発」
- ・由良裕美 (機械専攻) 平成19年度ライフサポート学会奨励賞 (ライフサポート学会)
「下肢障害児を対象とした自立移動支援装置の開発～試作2号機の製作と試乗評価～」

<ソーラーカー同好会活動>

発泡スチロールとカーゼを利用してのFRPボディを用いたソーラーカー「龍開大7号」を製作し、鈴鹿ポリウムカップのEnjoyクラス(4時間耐久)(2007年8月3～5日)への出場(13位)。
 神奈川県立産業技術短期大学校が中心となって主催する「かなかわエコカー競技大会」(2007年8月25日)へ展示車両として参加しました。

